■ 新バスシステムの進め方「段階的な取り組み」

新バスシステム運用開始　運行事業者との契約期間　より高度なＢＲＴの運行　新潟駅高架下交通広場供用

Ｈ25 年度　Ｈ26 年度　Ｈ31 年度頃　Ｈ34 年度　公共交通体系の成長

第１期暫定型に向けた取り組み　第１期完成型に向けた取り組み　第2期に向けた取り組み

基本協定　審査委員会　運行事業協定　事業監査会

バス路線再編

- ●バス路線再編計画の検討・協議
- ●バス路線再編に向けた準備
- ●バス路線再編と一体となった地域内交通の再構築
  - ‣区バス・住民バス・区域内路線バスのあり方（ルート，頻度，運行主体など）
- (仮称)各区地域公共交通検討会議
  - ➢ 構成：自治協議会，交通・道路管理者，運輸局，住民バス運営団体　交通事業者（新潟交通㈱等），新潟市　など
  - ➢ 第一段階のバス路線再編に向けた検討・協議

主な検討事項（例）

○北区　：	空白・不便地域への対応など	○秋葉区：	空白・不便地域への対応など
○東区　：	南北方向の強化など	○南区　：	都心アクセスの強化など
○中央区：	交通混雑の解消など	○西区　：	南北方向の強化など
○江南区：	便数など運行サービス向上など	○西蒲区：	空白・不便地域への対応など

第１期路線再編

- ●バス路線再編（第２期～）
  - ‣交通結節点の整備や交通誘導，乗り換えの定着などを図りながら，段階的にバス路線再編を進める
- ●区の実情に合った地域内交通の実現（H27～）
  - ※H27 以降もバス路線再編等に応じ随時改善
- (仮称)各区地域公共交通検討会議
  - ➢ 段階的なバス路線再編に向けた検討・協議

交通結節点

- ●各区の交通結節点の設置検討
- ●各区の交通結節点の整備
- ●新潟駅，市役所，白山駅の設計
- ●整備(H26)
- ●青山地区：乗換施設の検討
- ●設計
- ●青山結節点の暫定整備(H26)
- ●青山結節機能の向上
- ●交通結節点の整備
  - ‣鳥屋野潟南部地区
  - ‣新潟駅高架下交通広場

車両

- ●プロポーザル（ﾒﾝﾃﾅﾝｽ体制の確認含む）⇒業者選定⇒車両設計
- 議会採決
- ●車両メーカー契約
- ●車両４台の製造発注⇒製造（１台目 8ヶ月，２台目，３台目，４台目 4ヶ月）
- ●輸入　●登録　３ヶ月
- ●輸入　●登録　●試走等　３ヶ月　３ヶ月
- 6ヶ月
- 21ヶ月程度
- ●連節バス残り４台購入（H29）
  - ‣性能確認，メリットのＰＲを行ったうえで

BRT運行開始

BRTの機能強化

その他（走行空間等）

- ユニバーサルデザイン
  - ～高齢者，障がい者をはじめ誰もが利用しやすいように配慮～
- ●情報案内システムの整備(H26)
  - ‣駅，車両内，端末，交通結節点等
- ●段階的な導入　現地検証の実施(H27～)
  - 例）駅前通に島式ホーム先行整備，車線減，第１レーン活用　等
- ●専用走行路を道路中央部に設置
  - ‣新潟駅～古町間
- ●新潟駅～鳥屋野潟南部地区（弁天線等）での連節バス走行（H27～）
- ●新潟駅南側への新たな交通システム導入
- ●弁天線のバスレーン整備等

※H27 以降の交通流動の変化や関係機関との調整状況に応じて，完成時期は前後する場合がある